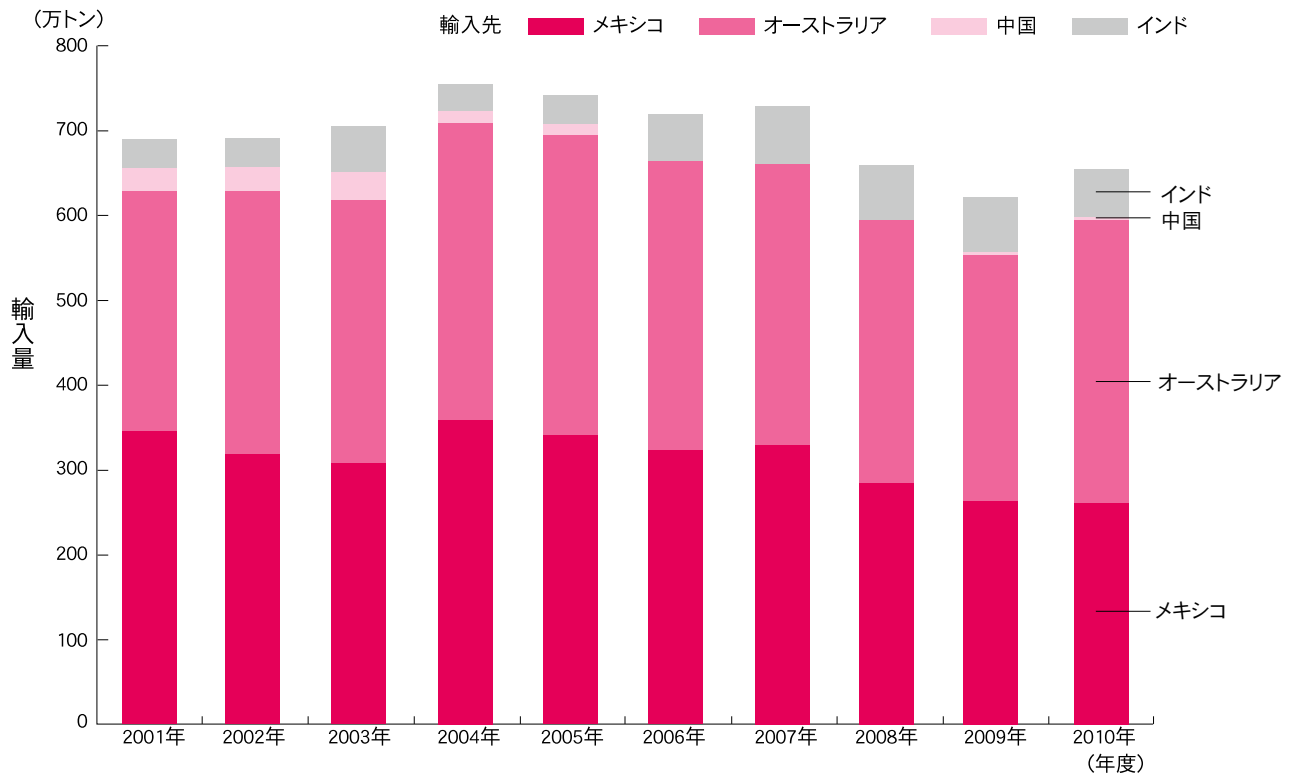


ソーダ工業用原料塩の輸入推移



(単位：千トン、構成比%)

年 度	需要量	輸入量	国 別 輸 入 量							
			メキシコ		オーストラリア		イ ン ド		中 国	
			数量	比率	数量	比率	数量	比率	数量	比率
2001年	6,830	6,922	3,422	49.4	2,955	42.7	290	4.2	255	3.7
2002年	7,044	6,922	3,148	45.5	3,214	46.4	345	5.0	215	3.1
2003年	7,118	7,012	3,085	44.0	3,259	46.5	420	6.0	248	3.5
2004年	7,320	7,517	3,542	47.1	3,470	46.2	358	4.7	147	2.0
2005年	7,236	7,427	3,397	45.7	3,592	48.4	361	4.9	77	1.0
2006年	7,203	7,217	3,245	45.0	3,530	48.9	439	6.1	3	0.0
2007年	7,219	7,382	3,367	45.6	3,319	45.0	696	9.4	—	—
2008年	6,589	6,613	2,779	42.0	3,163	47.8	671	10.2	—	—
2009年	6,174	6,211	2,656	42.8	2,892	46.6	656	10.5	6	0.1
2010年	6,638	6,637	2,652	40.0	3,329	50.2	648	9.7	8	0.1

現在、ソーダ工業の原料となる塩は、すべてが輸入されており、そのほとんどが、メキシコ、オーストラリアの天日塩です。

昭和40年代以降に、気象条件など、塩田の構築に適したメキシコ、オーストラリアに大規模塩田が整備され、日本国内でもこれに合わせて、受け入れ港湾を整備したことなどから、この2カ国に輸入が集中しました。

2010年度はメキシコから2,652千トン、オーストラリ

アから3,329千トンのソーダ工業用原料塩が輸入され、この2カ国で全体の約90%を占めています。

インドからは648千トンが輸入されましたが、全体に占める割合は、約10%となっています。

また、中国塩は、かつては年間100万トン以上が輸入されていましたが、中国国内のソーダ工業の発展から、塩の国内需要が急増し、中国塩の輸入はごく少量となっています。